

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成 29 年度相模原市子ども・子育て会議 第 2 回相模原市幼児教育・保育ガイドライン策定部会				
事務局 (担当課)		こども・若者政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 3 1 6 (直通)				
開催日時		平成 29 年 1 1 月 1 3 日 (月) 午後 6 時 0 0 分 ~ 8 時 2 0 分				
開催場所		市役所会議室棟 1 階 第 2 会議室				
出席者	委員	5 人 (別紙のとおり)				
	その他	7 人 (別紙のとおり)				
	事務局	8 人 (こども・若者政策課職員 5 名、保育課職員 3 名)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1. 開会 2. 議題 (1) 全園アンケート集計結果について (2) 研修体系について 3. その他 4. 次回策定部会日程について 5. 閉会				

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。( は委員の発言、 は事務局の発言)

## 1. 開 会

## 2. 議 題

## (1) 全園アンケート集計結果について

園種別で何か特徴的な傾向はあるか。

現時点ではアンケートの分析が進んでいないので、後日改めて園種別で集計したものを送付する。

家庭環境や地域環境等で特徴が出てくるかと思うが、地域別の集計は可能か。

区毎に集計したものは出すことができるので、後日改めて集計したものを送付する。

現場の保育者の声は、どの程度吸い上げができていないのか。また、現場での不安や要望については、どのような形で研修に反映されていくのか。

担任レベルの保育者一人一人へアンケートを取って集計するには、非常に時間がかかってしまうので、今回は施設長向けとした。現在は、研修が終わる毎に参加者へのアンケートを取り、それを次年度の計画に生かしている。しかし、全体の意見の吸い上げは現時点ではできていないので、今後必要になった際に改めて検討していく。

今回のアンケートの活用方法については、どう考えているのか。研修体系への反映とあったが、ガイドラインの作成に使用することもあるのか。

当初は、研修体系を構築する際の資料として活用することを考えていたが、想像を超えて幅広い意見が寄せられたため、非常に貴重な資料となった。ガイドラインはもちろんのこと、その他の活用方法についても今後検討していきたい。

今回のアンケートは、あくまで園側から見た視点であり、保護者側の視点からはまた異なった結果が見える可能性もある。一方向の視点だけではなく、関連するデータ等があればそれを参考にして、多角的にデータの分析を行うとよいと思う。

家庭での子どもとの関わり方の意識と学力調査の結果は関係性があり、保護者が高い意識を持っている家庭の子どもは学力も高くなる傾向がある。乳幼児期の教育・保育の質の問題を考えていくことが、その後の小学校以降の学びに直結していくことになるので、教育委員会と問題の共有を図ることが大事である。また、限られた予算の中で、教育・保育のあり方や小学校期の学習支援を行っていくことを考えたときに、保護者側の問題や、育ちの問題、地域性の特徴や、小学校との連動の問題がわかると、どんなことを重点的に考えていけばよいのかが見えてくるので、教育委員会側が持っている資料や、他機関の資料との突き合わせができるとよい。

アンケート結果で低い数値が出ている部分については、小中学校の児童生徒も同様の傾向が見られる。現在、小中学校の教員向けの研修は、主体的・対話的・深い学びといった資質能力を育むために、どのような授業を行うべきかといったことに力を入れているが、小学校との連携を考えたときに、保育所や幼稚園等の研修についても、その部分に力を入れていくとよいと思う。

アンケート結果で低い数値が出ている部分については、到達イメージについて保育者側の理解を深める研修を行うとよいと思う。

今回のアンケートを研修計画やガイドライン策定に生かす場合、かなり膨大な量の質的分析をかける必要があるが、どのような体制で行うことを考えているか。

まずは、アンケートの回答率を上げることを考えている。その上で分析に入っていきたいと思うが、当初の想定よりも多くの意見が提出されたため、今後の検討とさせていただきたい。

このアンケートをしっかりと分析することで、問題や課題、どこにお金をかけていけばよいのかが明らかになるはずなので、必要な所に必要なお金をかけていくためにも、分析に力を入れて欲しい。

## (2) 研修体系について

ある程度研修のプランが立った後でも、学識者や保育者が集まり、そのシラバスをどう考えていくのかについて意見を出し合える場であったり、振り返りを行う場があると、相模原の課題に応じたよりよい研修体系が構築されていくと思う。

研修体系の議論となっているが、ガイドラインの策定はどのように考えているのか確認したい。

ガイドラインについては、当初、平成30年度の幼稚園教育要領と保育所保育指針の実施に合わせて、今年度中に策定することを考えていたが、そのスケジュールでは拙速になってしまうので、もう1年度じっくり議論を行い、平成30年度の策定を目指したいと考えている。研修体系については、幼稚園教育要領と保育所保育指針が改訂実施されることに伴い、それに合わせた研修体系を今年度中に構築しなければならず、その関係で先に研修体系の案をお示した。今回のものは、案の段階であり、今後より良いものになるよう段階的に修正していくべきと考えている。

本来的には、ガイドラインが策定され、それに基づく研修体系を構築することが望ましいが、平成30年度よりキャリアアップ研修が開始されることで、県の受け皿だけでは到底研修を受けられないような状況が予想される。政令市の役目として、研修の受け皿を用意することが求められるとともに、相模原市の現状を踏まえたときに、階層別の研修体系を構築することで、現場の保育者のキャリアの見通しがつくようになり、意欲向上、離職防止にも繋がると考えている。そういった意味でも、この研修体系をスタートするタイミングとして、平成30年4月が適切

な時期と考えた。

次回の部会開催時に、今後の議論を活性化させるためにも、ガイドラインの趣旨や骨組みがわかるような設計図を示していただきたい。

現在、各団体が行っている研修との兼ね合いはどのように考えているか。また、アドバイザーについてはどのようなものを想定しているか。

各団体で行っている研修について、この研修案と重なる部分はそれを生かすことができるように研修体系を構築していきたいので、意見をいただきたい。また、アドバイザーについては、今後相模原市におけるアドバイザーとはどういったものが議論を進めていきたい。この研修体系に則っていくのは、来年度の新採用保育者からと考えており、現在在職中の保育者については、それぞれの園でどのステージから始めるのか、キャリアを考えた上で決めてもらいたいと考えている。

受講対象について、このような内容で研修を行うので、園の中でこのような仕事を担っている人に受講して欲しいというようなガイドがあると、各園で人材を選定しやすい。

幼稚園教諭については、10時間を目安に現在研修を行っているが、キャリアアップ研修の15時間というのは確定しているのか。

保育士については、15時間で決まっている。幼稚園教諭については、現在の体系に準じて選んでいただければよいと思う。

### 3. その他

特になし。

### 4. 次回策定部会日程について

日程調整を行い、後日連絡する。

### 5. 閉 会

相模原市幼児教育・保育ガイドライン策定部会委員名簿（五十音順）

名 前	所 属	出 欠
朝比奈 太郎	相模原市私立保育園園長会	出席
安藤 抄苗	公募市民	出席
大西 輝佳	相模原市立小中学校長会	出席
岡 健	大妻女子大学児童学科教授	出席
八木 肇	一般社団法人 相模原市幼稚園・認定こども園協会	出席

部会長

相模原市幼児教育・保育ガイドライン策定部会関係者名簿（五十音順）

名 前	所 属	出 欠
岩本 勉	一般社団法人 相模原市幼稚園・認定こども園協会	出席
遠藤 美智子	相模原市陽光台保育園園長	出席
大野 計子	相模原市ふじの幼稚園園長	出席
岡部 尚紀	相模原市教育局総合学習センター担当課長	出席
神尾 美香子	相模原市私立保育園園長会	出席
齋藤 正典	一般社団法人 相模原市幼稚園・認定こども園協会	出席
園田 巖	東京都市大学人間科学部講師	出席